

## 福井県福井市に漂着したヒメウミガメおよび 過去に福井県内で確認されたヒメウミガメの記録

小寺 仁美\*・高島 直子\*・久米田賢治\*

Sea-turtle of *Lepidochelys olivacea* stranded on the beach of Fukui-City, Fukui Prefecture, Japan

Hitomi KODERA\* and Naoko TAKASHIMA\* and Kenji KUMEDA\*

(要旨) 福井県福井市の海岸に漂着したヒメウミガメと福井県内における過去の本種の記録を記載する。

キーワード：ヒメウミガメ 漂着

日本近海に生息あるいは出現するウミガメはアカウミガメ (*Caretta caretta*), アオウミガメ (*Chelonia mydas*), オサガメ (*Dermochelys coriacea*), タイマイ (*Eretmochelys imbricata*), ヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*) の5種である(島 2010)。このうちヒメウミガメは、爬虫綱カメ目ウミガメ科ヒメウミガメ属に分類されるカメである。本種は、太平洋・インド洋・大西洋の熱帯および亜熱帯海域に分布し、産卵地ではない日本に出現する目的やその回遊経路についての詳細は分かっていない。本種は国際自然保護連合(IUCN)が、生物の絶滅の危険性を示すために作成したレッドリストには、絶滅危惧Ⅱ類に区分されており、国際的に絶滅の危険性が高いことが認識されている(Abreu-Grobois & Plotkin, 2008)。日本での発見は稀で(島 2010)、福井県での漂着記録は1997年(百崎ほか, 2011), 2011年(林 2012), 2013年(石原ほか, 2017), 2017年(林 2017)の4例のみである(表1)。今回、福井市の海岸で初めてヒメウミガメの漂着を確認したので報告する。また、併せて福井県内のこれま

での漂着ヒメウミガメに関する報告を整理し、記載する。

筆者のうち高島は、2019年3月25日午前10時頃、福井県福井市川尻町の三里浜海岸で、漂着物の調査中にヒメウミガメの死体を確認した。発見当日の天候は曇り、気温12℃、南寄りの風2.8m/sで本個体は汀線から2mほどの低潮線上に打ち上げられていた。低潮線上で随伴していた漂着物は、流木片、アシ、流れ藻などであった。

本個体は、背甲を上にした状態で打ち上げられており、頭部・甲羅・四肢に損傷は確認できなかった。頭部と胴部は頸部が皮一枚で繋がっている状態で、内臓などは既に失われており、腐敗臭も確認できた。

また、総排泄口も失われていたため、雌雄は不明であった。腹甲側には20個以上のフジツボの付着が認められた。

各部位の計測値は、直甲長61cm、直甲幅60cm、頭長17cm、頭幅13cmであった。

表1. 福井県に漂着したヒメウミガメの記録。(No.4のみ単位がmm)

No.	年月日	場所	直甲長	直甲幅	雌雄	根拠となる文献		標本登録No.	写真No.
			SCL	SCW					
1	1997/1/27	三方郡美浜町	57.2 cm	55.7 cm	不明	百崎ほか 2011	福井県におけるウミガメ類の記録 福井市自然史博物館研究報告 58 : 41-46	-	-
2	2011/12/23	三方郡美浜町山上	58 cm	59.2 cm	不明	林 2012	福井県美浜町に希少種ウミガメの漂着 漂着物学会誌 10 : 27-28	-	1
3	2013/2/1	大飯郡高浜町和田海岸	27.5 cm	26.1 cm	♂	石原ほか 2017	日本海におけるアカウミガメ孵化幼体の大量漂着が示唆するその出生地と移動 日本生態学会誌 67 : 3-12	FCMNH-Re207	2
4	2017/3/11	敦賀市赤崎	152.7 mm	140 mm	不明	林 2017	福井県敦賀市にヒメウミガメの漂着 漂着物学会誌 15 : 13-14	FCMNH-Re208	3
5	2019/3/25	福井市川尻町	61 cm	60 cm	不明	本記録		FCMNH-Re209	4

\*福井市自然史博物館ボランティア 骨格標本作製グループホネ部 〒918-8006 福井市足羽上町147

\*Hone-bu : Skeleton Specimen Manufacturing Volunteer Group of Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan.



写真1. 表1のNo.2個体



写真2. 表1のNo.3個体 (スケールは10cm)

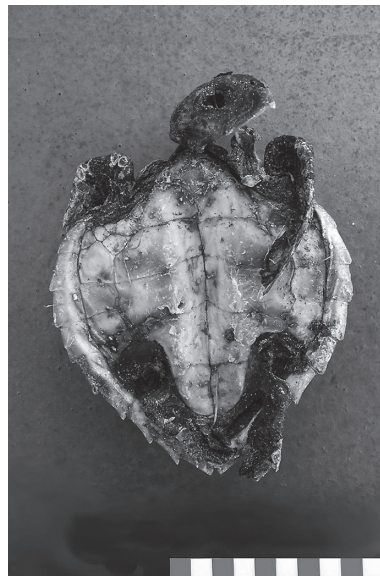


写真3. 表1のNo.4個体 (スケールは10cm)

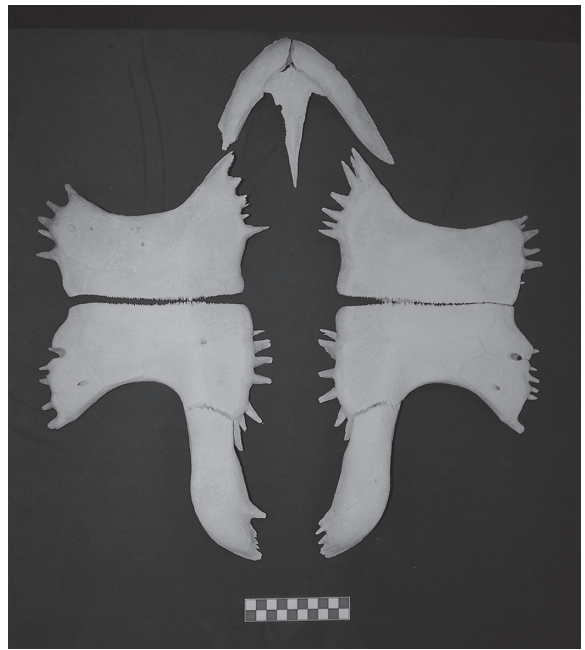
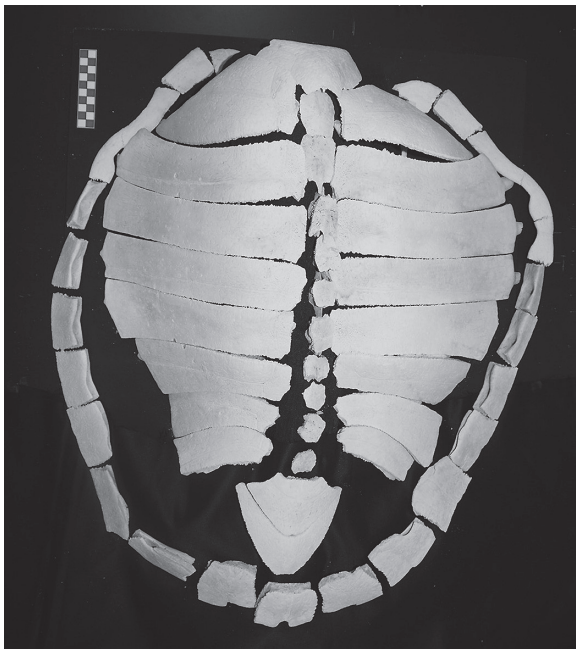


写真4. 表1のNo.5個体（漂着時および骨格標本）.（骨格標本のスケールは10cm）

筆者のうち小寺・久米田は同日、漂着場所よりさらに30mほど陸側にある砂丘上に、長さ70cm×幅70cm×深さ70cmほどの穴を掘り埋設した。

2020年6月7日、福井市自然史博物館ボランティア「骨格標本作製グループホネ部」で掘り出し、除肉・漂白作業の後、骨格標本として福井市自然史博物館に収蔵した（登録番号 FCMNH-Re209）。

表1は福井県に漂着したヒメウミガメの記録であるが、いずれも漂着が確認されたのが12月から3月の冬期間である。日本海に面する福井県の海岸には、冬期間に北西の季節風が強く吹くことにより、様々な物が漂着する。このヒメウミガメだけでなく、他の種類のウミガメや鳥類、魚類なども漂着する。ヒメウミガメは熱帯および亜熱帯海域に分布するが、黒潮が発生するフィリピン北部あたりから黒潮と共に北上し、対馬海流に分岐するところでそのまま日本海に入り込み、冬期の水温低下に耐えられず衰弱して海岸に漂着したことが考えられる。

また、ヒメウミガメの成体の大きさは甲長（SCL）60～70cmで（環境省自然環境局・日本ウミガメ協議会、2006）表1のNo1・2・5個体は、ほぼ成体に近いといえる。No3は成体とはいえない大きさである。No4の個体は、5例の中でも最小である。福井県内でヒメウミガメのこれほど小さなものは見つかっておらず、希少な発見である。今後も継続してヒメウミガメの漂着を確認することが本種の生態解明および保全に重要である。

## 謝 辞

本報告をまとめるにあたり漂着物学会会員の林重雄氏には、粗稿を見ていただき、写真をお借りした。日本ウミガメ協議会には、ヒメウミガメの情報をお知らせいただいた。また、福井市自然史博物館の出口翔大博士・骨格標本作製グループホネ部ボランティアの皆さんには、ヒメウミガメの掘り出し・標本作製に尽力いただいた。ここに記して感謝申し上げる。

## 引用文献

- Abreu-Grobois, A & Plotkin, P. (IUCN SSC Marine Turtle Specialist Group). 2008.  
*Lepidochelys olivacea*. The IUCN Red List of Threatened Species 2008.  
 e.T11534A3292503.  
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2008.RLTS.T11534A3292503.en>. (参照日：2021/1/27)
- 島 達也, 2010. 我が国におけるウミガメ類の現状について. ナチュラリスト, (58), 2-5.
- 林 重雄, 2012. 福井県美浜町に希少種ウミガメの漂着. 漂着物学会誌 10 : 27-28
- 林 重雄, 2017. 福井県敦賀市にヒメウミガメの漂着. 漂着物学会誌 15 : 13-14

- 石原 孝・松沢 慶将・亀崎 直樹・岡本 慶・浜端 朋子・青柳 彰・青山 晃大・一澤 圭・池口 新一郎・箕輪 一博・宮地 勝美・村上 昌吾・中村 幸弘・梨木 之正・野村 卓之・竹田 正義・田中 俊之・寺岡 誠二・宇井 賢二郎・和田 年史, 2017. 日本海におけるアカウミガメ孵化幼体の大量漂着が示唆するその出生地と移動. 日本生態学会誌 67 : 3-12
- 百崎孝男・水野由紀子・稲木明浩・鈴木隆史, 2011. 福井県におけるウミガメ類の記録. 福井市自然史博物館研究報告 58 : 41-46.
- 環境省自然環境局・日本ウミガメ協議会, 2007. 改訂ウミガメ保護ハンドブック. P34.